



「命を守れ、奇跡の人命救出に想う」

取手市在住 おのうえ のぶお
尾上 信生

この所自然災害が各地を襲い甚大な被害が発生している。今夏は特に人命に関わる異常気象などで行政も市民も困惑する事態に直面し先ずは身の安全確保、命を守れと言った切迫した対応が求められた。今夏この命を守れの二つの人命救出活動が注目を浴びた。一つは七月上旬タイ北東部にある洞窟に入ったサッカー少年十三人が行方不明となった。捜索も難航する中でイギリス人探検家が洞窟深くに進入し少年達全員の生存を確認し救出を救助本隊に引き継いだ。そして八月中旬山口県周防大島町で間もなく二才となる男児が行方不明となり生存が危ぶまれて三日目の早朝、大分県から捜索に加わった七十八才の男性が一人山中に入り幼児を発見、自らの手で救出を成し遂げた。これら人命救出に大きな役割を果たしたのは他ならぬボランティアと知り当初驚きを感じた所です。

後に、これらの事は偶然な事ではなく、前者は経験豊かな洞窟探検家で、後者は子供の行方不明捜索経験等もある徹底した自己完結型のスーパーボランティアと知り、両者のその信念と経験を生かした行動力に改めて感動させられた。一方救助を待つ側の行動に目をやると、先ずは閉ざされた洞窟内で救助を待つ少年達の自助、共助、諦めない精神で仲間同士の助け合い、支え合い、それとコーチの冷静な判断の基、統率された行動を取った事にも注目したい。もう一つは山中の沢の石に座り一人辛抱強く救助を待った感涙させるような幼児の行動と生命力等、これらが重なり奇跡の人命救出に繋がったものと推察する。今回の救出活動などは誰にでも出来る事ではないが学ぶ事の多い貴重なボランティア活動の一つとして今後に生かせればと願っている。災害が多発化する傾向さえ伺える今日、ボランティアへの期待は増々高まると思われるが、これら期待に応える事は市民においても行政にとっても大きな課題となろう。

この多岐にわたる課題の中でボランティアに絞って見れば何と言っても、人・マンパワーの問題が上げられよう。言うまでもなくボランティアは自主参加だ。其れが故に人が集まるかどうか根幹に係る問題だ。一方支援活動に参加する立場からは先ずはしっかり任務を全う出来る健康状態にあるか、又活動内容にもよるが自己完結の備えはどうか等々、これらは災害時に限った事だけではなく日常的なボランティア全般についても言える事ではないか。この際市民のボランティアへの関心をより高めるような働きかけ、ボランティア潜在能力の掘り起こしなど踏み込んだ取り組みが求められよう。

人生百才時代が囁かれる今日、健康長寿を目標に生きがいを求める高齢者も増えると思われる。仲間づくりやその受け皿としてボランティア活動を積極的に取り込むのも一つではないか。私個人としても今、自分に出来る事は何かを見極め少しでも地域・社会の求めに適時に応じられるような活動を目指してまいる所存です。

この作文を書いた理由

私事になりますが今年八月で後期高齢者の仲間入りをしました。今日迄社協、取手市などのご支援を頂き元気でこられた事を感謝しつつ、これからの自分に何が出来るか、又社会貢献をどういう形でやっていこうか考える機会の一つとして作文にとり組んだ所です。